

# 四條畷の古代史発掘



四條畷市教育委員会

## は じ め に

生駒山系の第1列は、飯盛山よりその方向を北北東にかえ、星田へと伸びているが、その急峻な西側斜面によりそうように洪積期の丘陵がひろがっている。京都の東寺より高野山に至る東高野街道は、北から南へこの丘陵をよこぎっていた。また、雁屋、堀溝より西南方には、広々とした深野池が江戸時代の中頃までひろがっていた。この岡山、清滝の山すその丘陵地をよこぎる東高野街道ぞいの一帯は、原始の昔から今日まで私たちの祖先の数多くの生活のあとをしるしている地域である。以前にも多少の調査が行われ、これの解明の手がかりはなされてきたが、昭和50年秋よりの片町線複線化に伴う調査をはじめとする調査によって、数多くの遺構、出土品を検出し、古代、中世の祖先の生活の足あとを私たちの前にあらわしてきた。これは本市の歴史の空白部分を埋めるのに大きな役割を果たすと共に、北河内地方の古代、中世史の解明にも数多くの資料を提供した。

この小冊子は、最近の調査のごく簡単な概要であるが、この中から私たちの祖先の生活のあとをくみとっていただくと共に、私たちのまち、四條畷の郷土愛へと昇華していただければ限りないよろこびである。

このたびの調査にご協力いただいた多数の方々に対し、深甚な謝意を捧げると共に今後のご協力をお願いする次第である。

昭和51年11月

四條畷市教育委員会

教育長 櫻井敬夫



忍ヶ丘古墳遠景（東方より）



讚良川遺跡（更良岡山遺跡）



敲石・ハンマーストーン出土状況



布袋



讚良川遺跡遠景（南方より）



護岸工事に伴う石組遺構

#### ❖ 讚良川遺跡

遺跡は四條畷市岡山に所在する。忍ヶ丘駅より北西約500m 讚良川北岸の台地と、それに続く河岸段丘の標高14~20mの地点に立地する。

発掘調査は、昭和24. 44. 46年および50年に、四條畷市教育委員会が主体になり実施された。(四條畷市埋蔵文化財包蔵地調査概報1 讚良川遺跡発掘調査概要, 1975) その結果、旧石器時代、縄文時代後、晩期、白鳳時代、江戸時代まで続く複合遺跡で、集落跡、寺院跡、讚良川護岸など各種の遺構、遺物が部分的に明らかにされている。しかし、その規模の大きさと重複する遺構の確認は今後の讚良川遺跡各時代研究に課せられている。

本遺跡は、昭和44年の発掘調査の際、縄文時代後、晩期の深鉢型土器、注口土器、石鏃、



石鏃、石斧、石皿、磁石等生活に必要な多くの道具を出土し、また祭祀用具も出土したことから近畿地方の縄文文化研究上きわめて重要な存在となった。また、昭和50年の発掘調査では江戸時代の讚良川護岸工事の杭列遺構、列石遺構の検出とともに、当時の陶磁器、布袋、縄文時代の石器、土器も多量に出土した。

石皿出土状況



正法寺跡発掘調査風景（北西より）



創建時の瓦出土



正法寺跡近景

### ❖ 正法寺跡

遺跡は四條畷市清滝に所在する。四條畷小学校北側の高台の田地、標高27～32mに立地する。発掘調査は、昭和44、50、51年に大阪府教育委員会、四條畷市教育委員会が主体になり実施された。(四條畷町正法寺跡発掘調査概要1970、大阪府教育委員会、四條畷市文化財シリーズ3、清滝の古寺正法寺と氏寺の造営、1975年12月、四條畷市教育委員会) その結果、寺域のある清滝丘陵のこの寺附近の南北の幅は約160mあり、南大門、中門、東塔、西塔、金堂、講堂の大伽藍が推定されている。寺域の南端には石積基壇が検出され、その他に乱石積基壇、大溝、井戸、礎石のある建物跡、池、掘立柱の列などの遺構や、奈良時代創建当時から鎌倉、室町時代にかけての軒丸瓦、軒平瓦、埴、須恵器、土師器、瓦器、灯明皿、羽釜等の出土があった。その後西側回廊の一部を発掘調査を行なった際、創建当時の瓦と共に礎石、須恵器、土師器が出土した。その出土状況からみて、寺院は、創建時より近世に至るまで永く続いた寺院であるため遺構は重なり、時に修復もされたり、或は戦火で焼け破壊されたと考えられる。



正法寺跡遠景(南方より)



発掘調査風景（北方より）

現地説明会風景



#### ❖ 坪井遺跡

遺跡は四條畷市岡山に所在する。この遺跡は、国鉄片町線複線化（片町線第1 忍ヶ丘高架橋新設その他その1 工事）の工事中に偶然発見されたものである。

発掘調査は、昭和50年11月四條畷市教育委員会が主体となり実施された。（坪井遺跡、市民見学会のしおり、昭和51年3月28日、四條畷市教育委員会）その結果、鎌倉時代末期～室町時代初期の集落跡、井戸、溝の遺構や、瓦器、灯明皿、羽釜、下駄、砧、櫛ノ子、漆器、木簡等の他に弥生時代の紡錘車、土錘、古墳時代中期の円筒埴輪片も多量に発見された。井戸は、生駒山系から出る花崗岩の

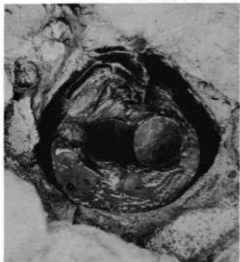


1号井戸内の遺物出土状況

石積で下段には、ヒノキの板を曲げた曲物を4段に積み上げたものや、素掘り井戸が検出された。

井戸内より、曲物底板、大壺、羽釜、瓦器、灯明皿、木筒（こむぎ三斗六升）が出土し、当時の庶民生活様式を知る上で重要な遺跡である。

2号石組み井戸内の曲げ物



粘出土状況







忍ヶ丘駅前遺跡



石組井戸



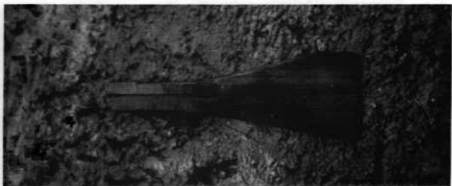
1号井戸内木簡出土状況

坏蓋出土状況



一号井戸完了風景

ヘラ出土状況



## ❖ 忍ヶ丘駅前遺跡

遺跡は四條堰市岡山、忍ヶ丘駅附近に所在する。生駒山系からのびる洪積期の忍ヶ岡丘陵に立地する。

この遺跡は、枚方信用金庫忍ヶ丘支店、マンション、電気店、国鉄片町線複線化（片町線第1忍ヶ丘高架橋新設その他その1工事）の建設に先がけ、昭和51年2月～7月まで、四條堰市教育委員会が主体になり実施された。その結果、片町線線路より東側、すなわち枚方信用金庫、マンション、電気店用地には、室町時代の建物跡、大溝、石積井戸、素堀井戸等が検出され、大集落跡の一部と考えられた。大溝からの出土品には、瓦器、灯明皿、磁器等の土器とともに、下駄、槌ノ子、ヘラ、箸等の木製品や呪術木筒（鬼急刻と墨書されている）がみられ、他の遺構内から縄文時代の石鏃、弥生時代の石鏃も同時に出土した。石組井戸は2基検出され全部の石が生駒山系からの花崗岩であった。中から瓦器、灯明皿、モモ、クルミの種子も出土し、当時の食生活を知る上で重要なものである。片町線複線化の調査では、鎌倉末期の落込遺構や石組井戸が検出し、井戸内から当時の木筒が8点出土した。この木筒には、……まいり日記、水牛、三斗六升等記されていることから、当時の生活様式を知る貴重なもので解読を期待されている。また少し離れた遺構内には瓦器、灯明皿の土器とともに男子成人の骨も出土した。その下層には、古墳時代中期の遺物が多量に出土し、今まで北河内で知らなかった古墳時代中期の集落跡解明に大きな成果を期待される。



男性成人骨出土状況



調査風景



瓦器・灯明皿、楯ノ子出土状況

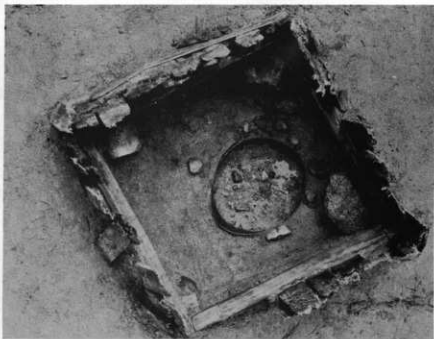


大溝完了風景

南山下遺跡調査風景



2号板枠井戸断面



2号板枠井戸



① 焼印

② 焼印

#### ❖ 南山下遺跡

遺跡は四條堰市岡山に所在する。忍ヶ丘駅より南約60mの忍ヶ岡丘陵と清滝丘陵の谷間の標高18mに立地する。

発掘調査は、昭和51年3月～8月の2度にわたり、四條堰市教育委員会が主体になり実施された。その結果、鎌倉時代の曲物を有する板井戸や、室町時代の瓦井戸が検出された。瓦井戸の下には板を打ち込んだ板枠があり、この板枠には三種類の焼印が施されていた。今までの遺跡で紹介した井戸とは異なり中世井戸の型式研究上きわめて重要である。この井戸と

同じ所に古墳時代中期～後期の大溝が検出され、その溝内より、土師器の壺、甕、大甕、高坏、坏、ミニチャ壺、須恵器の高坏、坏身、坏蓋、線、器台片の土器が多量に発掘された。



大甕出土状況



U字溝・柱穴出土狀況

灯明皿出土狀況



勾王出土狀況



1号井戸内出土状況

須恵器出土状況

#### ❖ 奈良井遺跡

遺跡は四條畷市中野に所在する。清滝丘陵上の標高20mに立地する。この遺跡は、国鉄片町線複線化（片町線第2忍ヶ丘高架橋新設その他その1工事）に先がけて、四條畷市教育委員会が主体になり実施された。調査の結果、古墳時代中期、奈良時代、鎌倉時代の複合



遺跡で、奈良時代及び、鎌倉時代の遺構は近世の水田のため削平されており、古墳時代中期の遺構が完全な形で残されていた。

古墳時代の遺構としては、建物跡、U字溝、V字溝、井戸等であり、土師器の甕、高坏、壺、須恵器の坏身、坏蓋、高坏、大甕や管玉、勾玉が出土した。

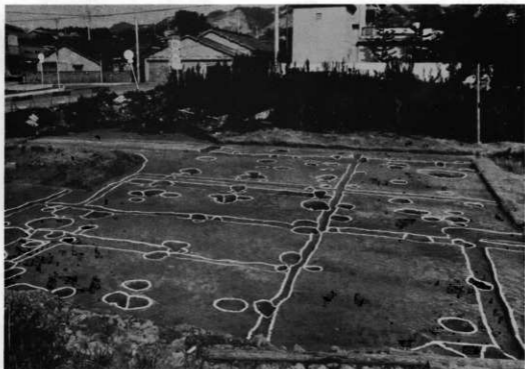


## ❖ 岡山南遺跡

遺跡は四條畷市岡山に所在する。忍ヶ丘駅より南東約100mの忍ヶ岡丘陵の標高28～30mに立地する。この遺跡は、府道、枚方・富田林・泉佐野線新設バイパス工事に発見され、昭和50年11月～昭和51年10月迄に3回発掘調査を、四條畷市教育委員会が主体になり実施された。その結果、旧石器時代、古墳時代、平安時代～室町時代、江戸時代の長期にわたる複合遺跡であることが判明した。

調査の結果、旧石器時代の尖頭器や石核が出土した。北河内の旧石器時代には、洪積期の丘陵のある枚方台地から四條畷市にかけて発見されてきた。津田、交野の山麓東北部の藤阪の宮山、津田三ツ池、交野市の神宮寺、寝屋川市打上から四條畷市岡山に発見されていた。また、枚方市教育委員会と枚方市文化財研究調査会の合同で行なわれた枚方市楠葉東遺跡から一昨年旧石器時代の有舌尖頭器、ナイフ型石器、握斧等多量の石器が出土し注目された。

古墳時代の集落跡には、方形プランの竪穴式住居跡、掘立柱の建物跡や巾2m、長さ30mのU字の大溝、井戸も検出し、大溝内から、大甕、壺、長頸壺、甕、高坏、坏身、坏蓋の土器と、北河内では初めての切妻造家型埴輪、馬型埴輪、朝顔型埴輪、円筒埴輪、盾、蓋等多量に出土した。また、中世の集落内より瓦器、灯明皿や近世の水田跡から陶磁器がそれぞれ出土した。



柱穴・溝状遺構検出状況



切妻造家型埴輪出土状況

甕形土器出土状況





1976.7.31 ジョーン・ハウキンス教授来訪

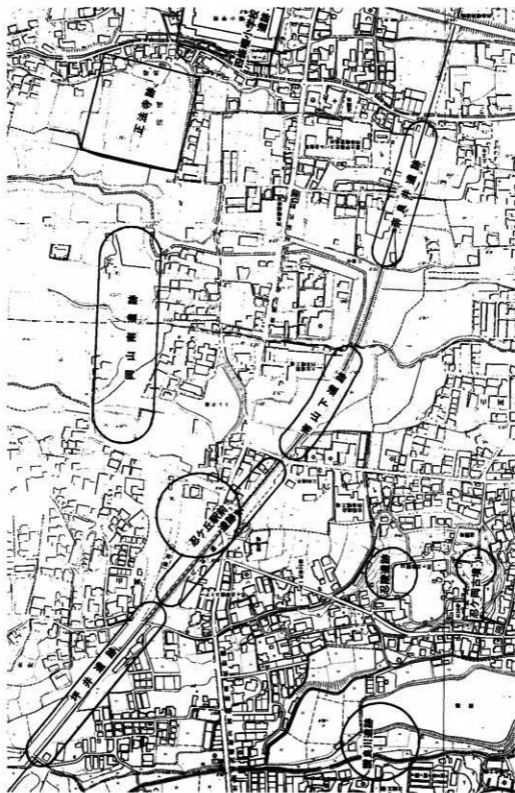
昭和51年7月には、カリホルニヤ大学・ジョーン・ハウキンス教授・大阪経済法科大学・村川行弘、瀬川芳則各先生方の視察があり、毎日のように附近の人達が見学されている。

実測風景



大甕出土状況

# 四條堰市埋蔵文化財分布地図



— 四條堰の古代史発掘 —

S 51. 11. 1

編集 | 四條堰市教育委員会  
発行 | 四條堰市文化財研究調査会

